

自ら学ぶ力を育てる授業の創造

I はじめに

近年、国際化や情報化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展するようになってきた。質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく中で、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ、他者と共に課題を解決し、次なる社会をどう描いていくかが社会的要請となっている。これからの教育課程では、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを明確化し育むことが求められている。(中教審 第211号より)

保健体育科においても、スポーツのする・見る・支える・知るといった、それぞれの観点が変容し、授業構成や学習形態などに新たな試みがなされるようになってきている。例えば、そのスポーツの発祥や特性について学習する際には、テレビやコンピュータ等の情報機器を活用して、より多角的で総合的な知識を得ることが可能になったり、現在開催されている世界レベルのスポーツイベントがタイムリーに情報入手できるようになったりしている。このことにより、生徒たちの学習活動に大きな変化がもたらされた。知りたい情報が容易に入手できるようになり、自ら学ぶことができる環境が充実してきている。さらに、個と個・集団と社会の関わりの中で、他者と協働しながらコミュニケーションをとり合って問題解決に向かう姿勢を育てている。

保健体育科では、社会の膨大な情報を精選し、生徒たちに取り組みせたい課題を明確にしたうえで、生徒たちが自ら考え、他者と関わり合っていきながら問題解決が図れるように、これからの体育・スポーツの在り方を模索していきたいと考えている。

II 本年度の公開授業について

1 公開授業 中学校3年男子 「サッカー」

本単元のサッカーでは、個のボールコントロールのスキルに加え、仲間との助け合いが必要となる協働学習の場面を仕掛けていく。「するスポーツ」はもとより、「みるスポーツ」として学習することで、スポーツの見方が変わり、戦術理解や新たな楽しさの発見につなげていく授業を展開する。

本時の役割設定ゲームで自らの役割と責任を理解し、全員攻撃・全員守備ゲームではゲーム全体の動きから自分が何をすべきか考え、行動させたい。

III 研究協議

本協議会では、「サッカーを学ぶ」ことで「何に気づけるようになるか」を授業づくりの視点として、その過程の在り方を考えていく。本校男子生徒において比較的興味関心の高さがうかがえるサッカーの授業から学びの過程を吟味し、これからの体育科教育の在り方を展望し議論したい。